

常滑

とこなめ

1992 市勢要覧



常滑

とこなめ

1992 市勢要覧

常滑の容貌

常滑市は、愛知県知多半島の西海岸中央部にあります。西は伊勢湾に面して平たん地が続き、東は半島の背骨ともいえる丘陵地帯となっています。人口は5万3,000人、面積48.35平方キロメートル。

海岸沿いに市街地があり、伊勢湾は漁業に、平たん地は商業に、そして丘陵地は農畜産業にと恵まれた地理的条件にあります。

また、古くから焼き物の産地として知られ、その歴史は平安末期から900年にも及びます。瀬戸、信楽、越前、丹波、備前と並んで日本六古窯のひとつに数えられ、中でも常滑は、最も古く最大規模といわれています。

目次

とこなめの容貌

春	1
夏	5
秋	9
冬	13

とこなめ情報ノート

お母さんの情報ノート	19
ヤングの情報ノート	23
大人の情報ノート	29
優しさ情報ノート	39

常滑のあゆみ

名誉市民

資料編



市章

常滑市の「常」の字を、画家の杉本健吉氏が図案化したもので、市民の団結と市勢の発展が表わされています。

(昭和30年6月制定)



市の木・クロマツ

みどりを育て、みどりを守り、みどり豊かな住みよい都市づくりのために、昭和49年3月、市制20周年を記念して、市の木に「クロマツ」が選定されました。

クロマツは、当地方で山林・防風林・庭木等として幅広く活用され、親しまれており、常滑市にふさわしい樹木です。



市の花・サザンカ

緑と花のある美しいまちづくりのために、全家庭を対象のアンケート調査の結果、昭和56年2月、市の花に「サザンカ」が選定されました。

サザンカは、花の少ない冬期に咲き、花期は長く、強い季節風や潮風にも耐える強健な花木として、庭木・生け垣等と用途も広く、多くの人に親しまれ、常滑市にふさわしい花木です。

S P R I N G

春

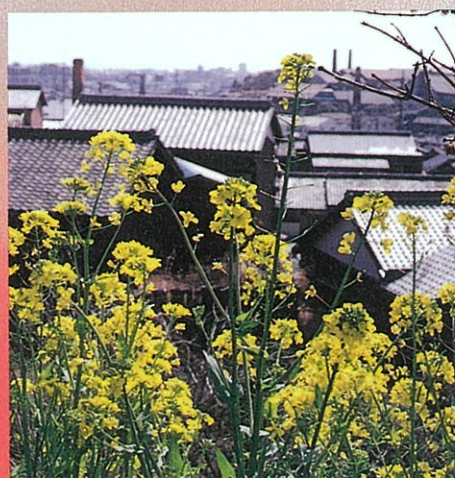


**うららかな陽ざしに
新しい生命の息吹を感じる瞬間。**

鈴鹿おろしが、
東よりの風が変わるころ、
常滑に春の香りがただよい、
新しい生命の喜びの詩が聴こえます。



3月中旬から6月下旬にかけて坂井海岸などでは、潮干狩りでにぎわいをみせます。



菜の花は、焼き物の褐色と落ち着きのあるハーモニーを醸し出しています。



常石神社は市民の憩いの場となっています。



大谷地区の祭礼



大野地区紅葉車のカラクリ人形の唐子



矢田川に浮かべられたまきわら舟「権丸」



S P R I N G

春

祭り囃子が 常滑に春の訪れをつげます。

桜の季節の到来とともに、
市内の各地で春祭りの時期を迎えます。
祭りの中心をなすのが、山車。
精緻な彫刻、華やかに刺繍をほどこした幕、
さまざまな人形戲を見せるカラクリと、
1台1台がすばらしい芸術品です。
とくに、大谷の蓬来車、坂井の山車、
大野の唐子車、紅葉車、梅栄車は、
市の有形民俗文化財に指定されています。



S U M M E R

夏



ふるさとへの熱い思いが燃えあがる。

常滑市の16キロメートルにも及ぶ海岸線は、
さまざまな表情を持っています。

大野、坂井の海水浴場、

ウインドサーフィンのセールが花のように咲き乱れる多屋海岸、

常滑層の断層を見ることができる大谷海岸、

それぞれの夏が海岸線を彩ります。





① 瀬木区で行われる天王まつりは、提灯行列にはじまり、打ち上げ花火で終る夏祭りです。

② 矢田区で行われる虫送りは、うんか送りと松明行列の二つの行事からなる農業に根ざした伝統行事で、田植えの終わった6月下旬から7月上旬ごろに行われます。

③ 大野海水浴場などで、夏の陽ざしを浴び、海水浴を楽しみます。

④ 多屋海岸から鬼崎漁港にかけて、海浜植物の群生を見ることができます。

⑤ 市役所西駐車場で行われる市民盆踊り大会は、楽しい一夜を提供します。



S U M M E R

夏

太陽と流れる汗が生む 常滑の夏。

常滑の夏は熱い。

燃えあがる太陽と作陶にかける人々の熱気がひとつになって、
より一層夏を暑くします。

そして、

900年にわたって受け継がれてきた情熱が、
常滑焼の永遠の命を生み出します。

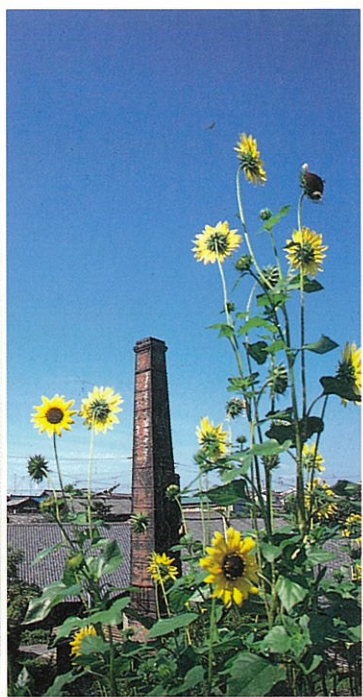


常滑焼を広く知ってもらおうと昭和41年に始められた常滑焼まつりは、年々その規模を拡大し、平成3年には、26万人以上の来客数を数え、全市を挙げた夏の一大イベントとなっています。鉢類や茶器などの即売を中心に、楽焼コーナー、コンサートなど、たくさんの協賛行事もあり、遠く岐阜県、三重県からも多くの人が訪れます。土曜の夜は、2,000発の花火が夜空をこがし、祭りに彩りをそえます。



A U T U M N

秋



小さな旅に 出会いとふれあいを求めて。

1.3キロメートルと4キロメートルの三つのコースを持つ

「やきもの散歩道」は、

常滑焼の歴史とそれを支えた先人たちの

歩みをたどる散策路です。

狭く曲がりくねった路地、

レンガ造りの高い煙突、黒い板塀。

土管や焼酎瓶で埋めつくされた「土管坂」から

伊勢湾を望むことができます。

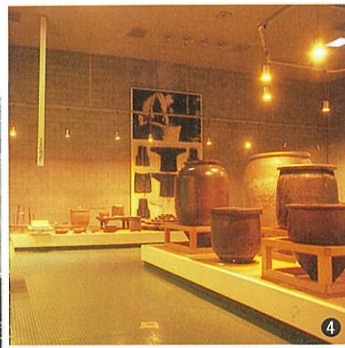


① 国の重要有形民俗文化財に指定された「登窯」は、常滑のシンボルのひとつです。

② 窯のある広場資料館は、多くの土管を産出した窯と煙突をそのままの姿で残しています。

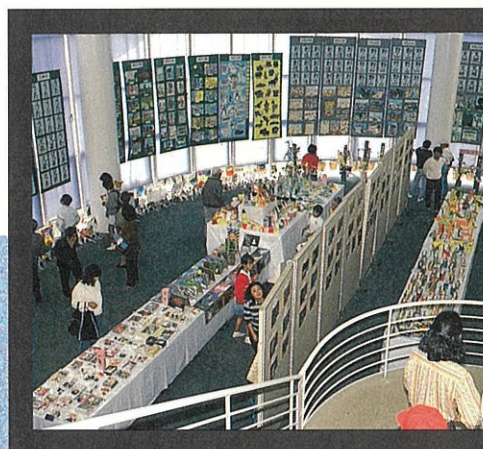
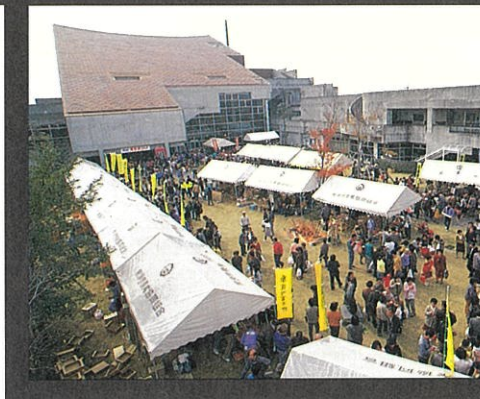
③ 古常滑の壺、鉢などから江戸時代以降の名品までを常設展示している陶芸研究所。絵付けも楽しむことができます。

④ 国の重要有形民俗文化財に指定された「常滑の陶器の生産用具・製品」1,655点の内、約300点を展示している民俗資料館。縄文から中世までの発掘品を中心とした常滑窯業史も紹介しています。





- ① 子供たちは、土の温もりと収穫の喜びを学びます。
- ② 農業まつりでは、市内で収穫された農畜産物の品評会と即売会が行われます。
- ③ 文化祭で、市民は1年間の活動の成果を発表します。手芸、絵画、彫刻、写真……。

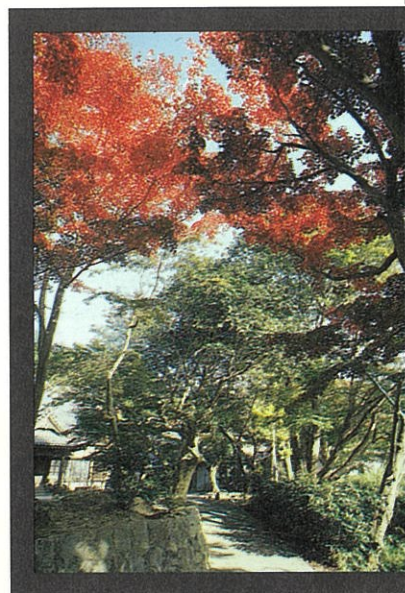


A U T U M N

秋

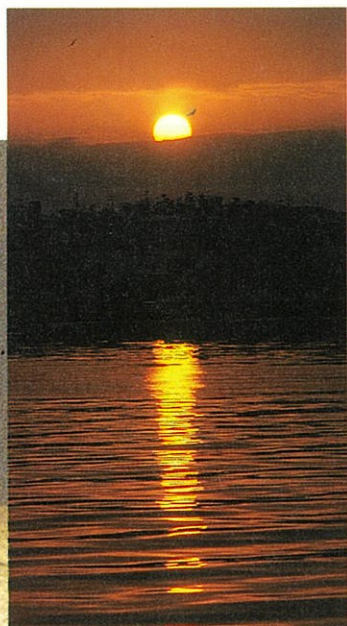
黄金の海に、オレンジ色の光が流れ
実りの秋がやってくる。

稲穂の波がうねり、
収穫の喜びがわきたつ秋は、
人々に文化の香りを運んできます。
各地で開かれる文化祭、音楽祭、農業祭……。
地域文化が花開く時期です。



W I N T E R

冬



荒涼のなかにも、海の恵みに育まれて。

鈴鹿おろしの乾いた風が、
常滑に冬を連れてきます。
身を切るような寒風が、
常滑の海苔を育てます。
冬は自然の厳しさと優しさを、
私たちに教えてくれる季節。



大谷海岸は、市内で数少ない自然のままの海岸線を残しています。



桧原大池には、毎年1,000羽ほどの鴨たちが越冬のために訪れ、バードウォッチャーの格好のポイントとなっています。



常滑の海は、絶好の海苔の養殖場で、9月の海苔そだ打ちから3月まで、海苔の養殖におわれます。



W I N T E R

冬



幼、保育園では、父母と一緒にもちつき大会が行われます。

短い冬だから 力強く駆け抜ける。

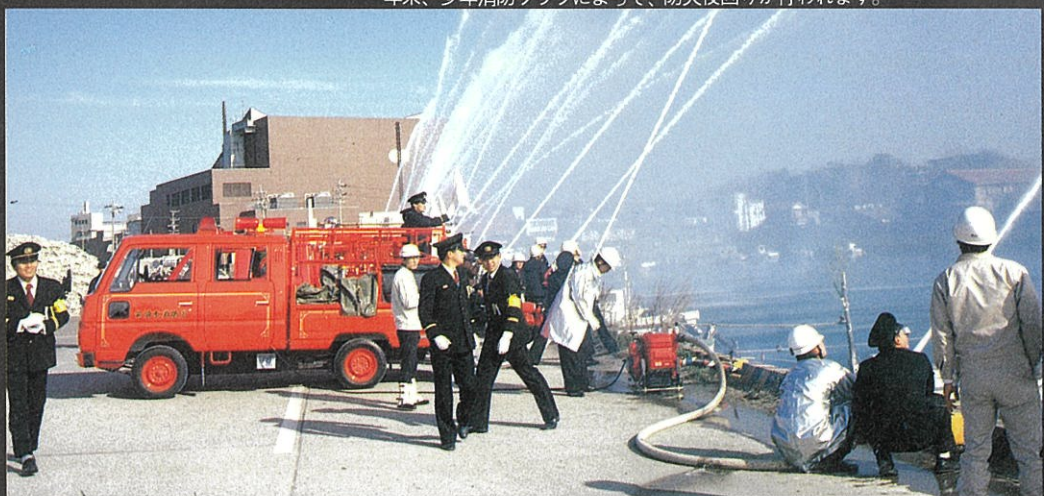
冬の主役は子供たち。
ほっぺをまっ赤にして、
北風に向かって力いっぱい走る姿に、
大きな夢と未来が広がります。
可能性という翼をいっぱいひろげて、
すばらしい明日へ。



土管を利用した門松は、陶都常滑の風物詩です。



年末、少年消防クラブによって、防火夜回りが行われます。



寒風について出初式が行われます。

発刊にあたって



私たちの常滑市は今、国際化、情報化、高齢化など社会環境の著しい変化の中で、大きな注目と期待を集めています。

中部新国際空港は第6次空港整備五箇年計画に調査実施空港として組み込まれ、21世紀初頭の開港を目指しています。今まで常滑市が経験したことのない地域社会の構造的変化が予想されます。

一方、高齢化社会に向けて福祉の充実、次代を担う子供たちの健やかな育成、暮らしやすい環境の整備、活気あふれる地域産業の振興など、行政の課題は緊急かつ重要です。

快適で安心して暮らせるまちづくりを目指して限られた財源の中で最大限の行政効果を上げていかなければなりません。市民の立場に立った市政を推進し“21世紀にはばたく常滑”の実現に努力しています。

この市勢要覧は、まちの発展と市民の幸福を目指して歩み続ける常滑市を紹介したものです。私たちのまちを理解していただく参考になれば幸いです。

平成4年7月

常滑市長 石橋誠晃



とこなめ情報ノート



母の手のように。

温かい地域づくり

家庭。
それは子供たちを育み、
明日への活力を生み出すところ。
そして、地域社会を形づくる小さな輪。
小さな家庭という輪がつながり、結びあって
地域社会という大きな輪が生まれます。
温かく、優しい母の手のようなその輪は、
安全を守り、安らぎを生みだす輪です。



PART 1



交通安全は家庭から、まず親が手本をと、お母さんたちの自主的な交通安全教室が行われています。その成果が、子供たちの通学時に生かされています。



緑化運動は、地域緑化と家庭緑化の2本立て。家庭緑化の推進のために苗木の無料配布が行われます。

地域環境保全のために、一斉清掃が行われます。地域の美化は、住民一人ひとりが力を合わせて。また、公害防止のために、定期的な監視や測定、指導も行っています。



「捨てればゴミ、生かせば資源」と、生活グループや子ども会などで資源回収が行われています。



いざという時のために、防災訓練が行われます。



屋内消毒作業は、害虫の発生を抑えるために、地域の協力を得て行われます。

夢いっぱいの子供たちへ。

ふれ愛、学び愛、育て愛

子供たちは、大きな夢と可能性の泉。
健やかに成長できる環境、
心を解放できる豊かな自然、
伸びようとする力を励ます学びの場、
そして、地域社会とのふれあい。
子供たちの夢がかなう日のために。

健診は、住民が健康への意識を高める大きなきっかけとなっています。乳幼児を対象とした健診・予防接種、母親教室、育児教室などが保健センターで行われています。

PART2



幼いころから培った国際感覚は、一生の財産です。常滑東小学校では、夏休み中に、常滑を訪れた外国の人たちと書道を通じて交流を深めています。



松原公園で行われた「グリーンアドベンチャー」は、親子で自然とふれあいました。



公民館で七夕会が行われ、親子がふれあい、楽しい一時を過ごします。



子供たちの健やかな成長のために、市内にはたくさんの公園やスポーツ施設があります。子供たちでにぎわう常滑プール。



子ども会活動のひとつとして相撲大会も開かれます。

本館と三つの分館を持つ図書館は、だれもが、いつでも、どこでも学ぶことができる社会教育を目指しています。



は ば た
飛翔く。

若い力がみなぎって

心臓が高鳴り、筋肉に緊張が走る。
身体の奥に力をグッとため込んで、
より高く、より速く、より力強く、
そして未来へスタート。



PART 1

健康と体力の維持増進や社会的交流を深めるため、体育施設の整備を進め、各種スポーツ教室や大会などを開いています。また、体育協会を中心に自主的なスポーツ活動が行われています。



16キロメートルに及ぶ常滑の海岸線は、ウインドサーフィンやヨットを楽しむ若者のプレイスポット。海や砂浜をもう一度見つめ直し、「白い砂浜のあるふるさとの海」をつくっていかうと“ビーチフェスティバル”が行われます。

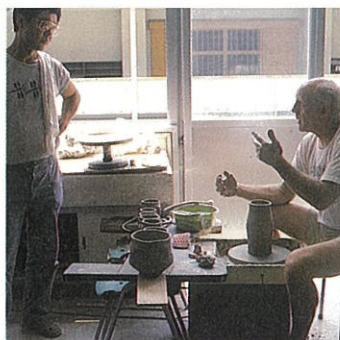
ま じ 交流わる。

国を越えて語り合う土と炎の言葉

文化も、風習も、
言葉も違う人たちが、
国を越え、集い、
土と炎の伝統を通して、
夢を、町を語り合います。
そこに生まれるものは、
心とところのふれあいと
熱い友情。



PART2



焼き物を通じた企業研修や民間での国際交流が盛んに進められています。昭和60年に始まった「とこなめ国際やきものホームステイ (IWCAT)」は、外国の陶芸家や芸術家が一般家庭にホームステイし、焼き物づくりを通じて市民レベルの国際交流を深めています。



ひろ 波紋がる。

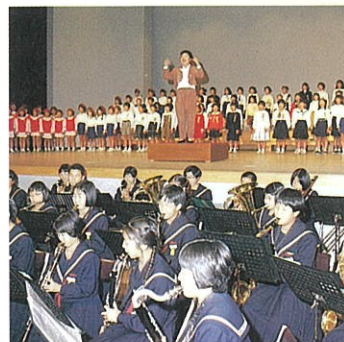
未来への確かな足音とともに

英語の「耕す」という言葉から
カルチャー（文化）がうまれました。
人々は心を耕し、町を耕し、文化という作物を育てます。
そして、ふるさとに生きようとする熱い思いが
地域に文化の華をさかせます。



PART3

小中学校音楽祭は、学区を越えた生徒たちの交流や音楽教育の振興、音楽の感性を高めるなどのために行われます。



若い世代によって貴重な文化遺産である囃子の保存が行われています。



平成2年に始まった「とこなめ音楽祭」は、市民手づくりの音楽祭で、小学生から大人までの市民が世代を越えて参加します。

都市型CATV「とこなめニューテレビ」が平成3年10月、スタートしました。高度情報化社会の中で、地域の情報ネットワークとして活躍しています。



成人式は1月15日に市民文化会館で行われ、新成人を祝います。



ボートコンテストは、若者の夢が花開きます。

都市の脈動。

明るく住みよいまちづくり

かつて一本の道が、人を運び、物を運び、
文化を運んできました。

そして、恵みや文化を生みだしました。

幾年月を重ねても、その役割はかわりません。

道は、人と人を結び、文化を育み、情報が行き交い、
まちの夢を広げます。

道路や河川、上・下水道、公園など都市基盤の整備は、潤いのある市民生活や活力ある産業活動のために欠くことはできません。ひとつの道路が流通の流れをかえ、新しい商圈を拓きます。



PART 1



憩いとゆとりの空間は、将来の都市づくりの大きな要素です。松原公園は、既存の森林を利用して造られた自然公園です。休日には、楽しそうな親子連れの声が響きます。

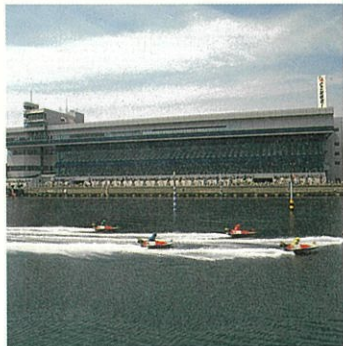


街の顔である駅前は、駅ビルを中心に新しい市民の憩いのコミュニティスペースとなっています。



土地区画整理事業で、優良な住宅地が供給されています。

常滑競艇場では、1年の内180日ボートレースが開催されます。全スタンド冷暖房完備で、ゴーカートや婦人子供ルーム、陶芸教室などのレジャー施設もあり、家族連れでも楽しむことができます。



環境に配慮して公有水面の埋め立てを行い、計画的な公共施設用地の確保を進めています。



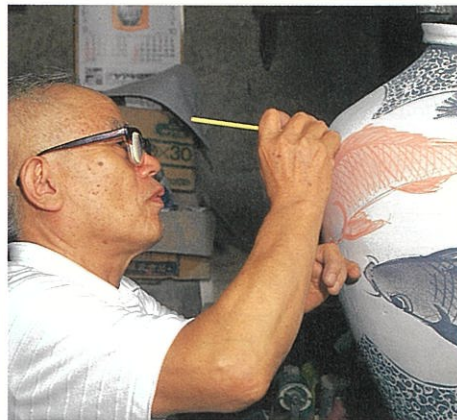
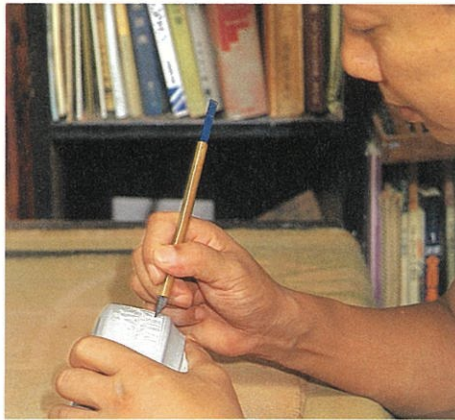
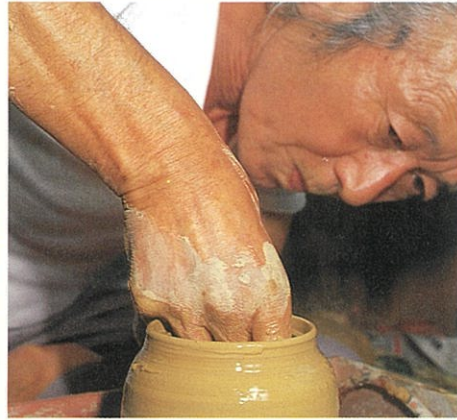
土に生きて。

その悠久の歴史とともに

ひとにぎりの土が炎と出会った瞬間、
あたらしい生命が宿り、
そして、現在に受け継がれています。
伝統、文化、街、産業……、
すべては土から生まれ、
土との語らいの中で育まれた
悠久の歴史です。



PART2



常滑焼には、数々の伝統の技が受け継がれています。
大物造りのヨリコ造り、作陶の基本ともいえるロクロ
技術、そして精緻な装飾へと結びつく絵付けや彫り。
長い歴史に支えられたこれらの技術が常滑焼の深い味
わいを生み出しています。



長三賞陶芸展は、昭和47年、常滑焼の振興のため
に名誉市民故伊奈長三郎氏の寄贈された基金によ
って創設された公募展で、全国から多くの作品が
寄せられています。



長三賞陶業展は、陶業の振興を図るため、陶業
品または将来商品化される見込みのある陶業品を審
査し、優れた作品に賞を与えています。

風土に根ざして。

自然の恵みと厳しさの中で

人の営みは、
自然とともにあります。
土地の気候や風土に根ざし、
その恩恵を受けています。
時には厳しい試練も訪れます。
たとえ科学が進歩した現代でも、
自然とともに生きる私たちにとって、
大地の匂いや風のささやきは、
大切なものです。



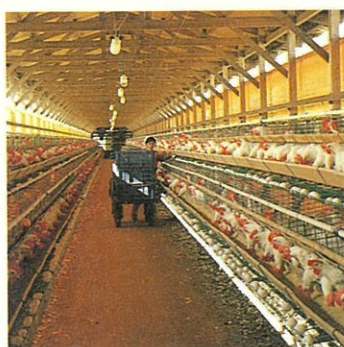
PART3



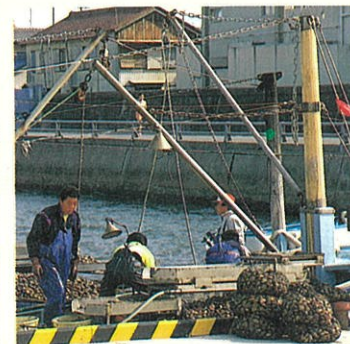
土地の効率的な利用と優良農地の保全のために市街化調整区域全域で、大規模な土地改良事業が行われています。



菊に代表される花卉園芸や酪農・養鶏などの畜産、キウイフルーツやイチジクなどの果樹園芸など、多様化された農業が展開されています。



海苔養殖を主体にした漁業が営まれており、香りやつやなど品質は高い評価を受けています。沿岸漁業も盛んで、クルマエビやガザミなどの稚魚の放流を行い、捕る漁業から育てる漁業へと栽培漁業が進められています。



新しい風を感じる。

より高度な産業都市をめざして

常滑の焼き物の伝統は、
常に新しい力を入れ、
自らその姿を変え、成長してきました。
時代が求めるニーズを見つめ、
未来への確かな歩みを続けています。



PART4

市民の高級化、高品質化志向にあわせて、最先端のファッションをはじめ、より新しい商業展開が生まれつつあります。



常滑市の工業は、窯業を中心に繊維工業、機械金属工業、醸造業などがあり、久米地内、大谷地内で工業団地の造成が進められ、新しい工業エリアができつつあります。窯業については近代化、機械化された工場で大量生産されるものと伝統的な技法で造られる手造りのものがあり、時代のニーズに応じて新製品を開発しています。



また、地場産業の焼き物を扱う商店の集約化を図るため、とこなめ焼卸団地の整備が進められています。



明日へ。

大いなる旅立ちのとき

まちは永遠の命を持っています。
まちは悠々と受け継がれ、
はるかなる歴史をつくりあげます。
大いなる旅立ちのために
確かな一歩を踏みだし、
まちの幸福と発展を目指します。



PART5

常滑市は今、21世紀に向かって大きな期待と注目を集めています。

市民が安全でやすらぎと潤いのある生活を送るため市街地の環境整備、地場産業を中心とする産業の活性化、自然環境の保全と活用、高齢化社会への対応、子供の健やかな成長と育成のための環境づくり、そして、中部新国際空港への対応など、一つひとつが欠かすことのできない事業です。



喜びとともに。

社会とのふれあいのなかで

思い出を語るのも楽しい。
仲間といっしょに、
頑張るのも楽しい。
そして、自分の経験や力を役立てるとき、
それは、楽しさより喜び。



PART 1

シルバー人材センターは、会員の希望や能力に応じた仕事を提供し、活力ある地域社会づくりに大きな役割を果たしています。街路樹の剪定、公園の清掃など、市役所や各事業所、一般家庭からの仕事の依頼を受けています。



老人クラブは、囲碁、将棋、ゲートボール、芸能教室発表会などさまざまな機会を通じて、交流を深め、教養の向上、健康の増進につとめています。また、地域社会との交流を深めようと、清掃奉仕などを行っています。



優しさにつつまれて。

手の温もりに心が通う

ささやかなふれあいの中で、
こまやかな思いやりがほほえみを生み、
生きる喜びをわかちあいます。
手の温もりを感じたとき、
人は優しくなります。



PART2

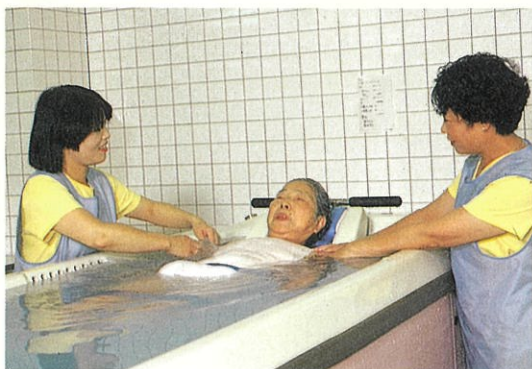
市内に3カ所設置された授産所では、障害のある人で雇用されることが困難な人が、独立自活するのに必要な生活指導や作業指導を行っています。



障害のある幼児の発達の促進と障害の軽減を図り、社会生活を円滑にできるように指導する千代ヶ丘学園では、児童の年齢や障害の種類、程度に応じた療育や生活指導が行われています。

デイサービス事業は、在宅で心身が弱く、日常生活に不自由しているお年寄りの健康維持と家族の介護負担を軽くするため、リフト付きワゴン車で送迎し、センターで食事、入浴、養護などのサービスをしています。職員さんとの楽しい語らい、入浴タイムなど、ゆっくりとくつろいだ一日を過ごすことができます。

また、寝たきり老人を抱える家族やひとり暮らしの老人のために、身体介護や家事援助など、日常生活の介護をする家庭奉仕員が定期的に訪問をします。



市民病院は、地域医療の中核として、施設の整備充実、サービスの向上に努め、市民の健康を守っています。

ふれあい賛歌。

すてきな笑顔に出会うとき

「こんにちは」「ありがとう」「また来てね」
そんな言葉の中に、すてきな出会いを感じます。

心の交流に
幸せを感じるとき、
生きる喜びが……。



PART3

障害を持つ人々と地域の人たちが一緒になって、潮干狩りや夏祭りなどの行事が行われます。



養護老人ホームは、家庭で養護を受けることが困難なお年寄りが健康で楽しい余生を送るためにつくられた施設です。仲良く、お互いに助け合う気持ちを大切にして、「今日も元気にさわやかに」と生活しています。



市民の人に社会福祉について、より広く知ってもらおうと福祉大会は、毎年秋に行われます。当日は、福祉団体やボランティアグループの活動紹介や作品展、チャリティバザーなどが行われ、障害を持つ人々とのさわやかな交流が行われています。



お年寄りに感謝し、長寿を祝う会として敬老会が市内各地で行われます。当日は、区長さん、地域の役員をはじめ、婦人会などによりアトラクションも催され、世代を越えたふれあいが、お年寄りに素敵な一日をプレゼントします。



常滑のあゆみ

明治	
4 年 (1871)	額田県に属する
5 年 (1872)	愛知県に属する
21 年 (1888)	盛田命祺が「私立鈴溪義塾」を創立
22 年 (1889)	大野村が町制施行 (10/1)
23 年 (1890)	常滑村が町制施行 (12/17)
29 年 (1896)	常滑工業補習学校が創設される (明治33年常滑陶器学校となる)
44 年 (1911)	大野・常滑・西浦地区に電灯がつく 枳豆志村が町制施行、西浦町となる (12/10)
45 年 (1912)	伝馬町～大野町間に電車が開通
大正	
2 年 (1913)	大野町～常滑間に電車が開通
7 年 (1918)	定期バスが半田～常滑間を運行
14 年 (1925)	常滑陶器学校が県立になる (昭和10年愛知県常滑工業学校に改称)
昭和	
5 年 (1930)	常滑陶器館が建設される
11 年 (1936)	常滑実科高等女学校が開校 (昭和17年愛知県常滑高等女学校に改称)
19 年 (1944)	東南海地震が発生 (12/7)
23 年 (1948)	常滑工業学校と常滑高等女学校が統合、県立常滑高等学校となる 学校給食が始まる
25 年 (1950)	名古屋～常滑間に直通電車が開通
26 年 (1951)	鬼崎村が町制施行 (10/17)
27 年 (1952)	小鈴谷村が町制施行 (7/1)
28 年 (1953)	常滑競艇が開催される (7/10) 13号台風が市内を襲う
●市制施行後のあゆみ	
29 年 (1954)	4 月 1 日 市制施行 (県下17番目) (常滑町、鬼崎町、西浦町、大野町、三和村が合併)
	4 月 25 日 初代市長に伊奈長三郎氏が就任
30 年 (1955)	3 月 27 日 二代市長に滝田次郎氏が就任
	6 月 1 日 市章を制定

31 年 (1956)	4 月 1 日 各地区消防団が統合
	5 月 26 日 市防犯協会を結成
32 年 (1957)	3 月 31 日 小鈴谷町の一部 (大谷、小鈴谷、広目、坂井地区) が常滑市に合併
	9 月 1 日 国民健康保険事業を開始
33 年 (1958)	1 月 15 日 全市統一成人式を開催
	9 月 1 日 三和、大野中学校を統合、青海中学校を設立
34 年 (1959)	3 月 27 日 三代市長に久田慶三氏が就任
	4 月 28 日 市民病院が完成
	9 月 26 日 伊勢湾台風で大被害
35 年 (1960)	4 月 1 日 三和東、三和南小学校を統合、三和小学校を設立。大野、三和西小学校を統合、大野小学校を設立
36 年 (1961)	7 月 24 日 中部知多衛生組合が発足 (し尿処理)
	10 月 10 日 市立陶芸研究所が完成
37 年 (1962)	2 月 20 日 県営愛知用水上水道による給水を開始
	9 月 11 日 常滑武豊衛生組合が発足 (ごみ処理)
38 年 (1963)	4 月 1 日 西浦、小鈴谷中学校を統合、南陵中学校を設立
	11 月 12 日 常滑音頭、常滑小唄を発表
39 年 (1964)	10 月 4 日 東京オリンピック聖火リレーに市民が参加
	11 月 2 日 市制10周年記念式典
40 年 (1965)	5 月 26 日 消防庁舎が完成
	11 月 18 日 交通安全「子どもを守る会」が発足
41 年 (1966)	10 月 15 日 市民体育館が完成
42 年 (1967)	9 月 11 日 第1回常滑焼大見本市を開催
43 年 (1968)	11 月 1 日 県常滑窯業技術センターが完成
44 年 (1969)	3 月 15 日 万国博に常滑焼が参加
	4 月 16 日 市庁舎が完成

名誉市民



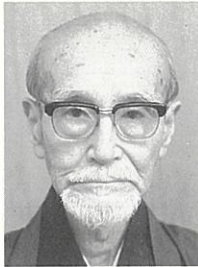
い な ちゅうざう
故伊奈長三郎氏

昭和47年 6 月12日名誉市民
明治23年 3 月20日生 (常滑市奥条)
名陶工伊奈長三郎氏の六代目にあたり、近代常滑窯業の発展と開発に尽力され、市制施行、市勢の進展に偉大な貢献をされた。常滑町議員、常滑町長を歴任、初代常滑市長に就任。市立陶芸研究所建設に寄与された。
昭和55年10月10日逝世 享年90歳



ひ さ だ けいぞう
故久田 慶三氏

昭和54年 6 月13日名誉市民
明治30年 1 月20日生 (常滑市阿野町)
西浦町議員、西浦町長、常滑市参与、常滑市助役等の公職を歴任し、昭和34年常滑市長に就任以来 5 期20年にわたり、行政のトップとして偉大な功績を残された。昭和54年、交通安全最高栄誉章「緑十字金章」を受章された。
昭和58年 7 月29日逝世 享年86歳



た に かわ てつぞう
故谷川 徹三氏

昭和62年 8 月13日名誉市民
明治28年 5 月26日生 (旧常滑町出身)
京都帝国大学文学部哲学科卒業後、哲学者、文学者として活躍。大学教育の発展や日本文化の保存、研究に貢献された。市立図書館の「谷川文庫」や長三賞陶芸展の審査委員長などを通じて、常滑市の文化の発展に大きな足跡を残された。
平成元年 9 月27日逝世 享年94歳

自然

市役所の位置

所在地 愛知県常滑市新開町4丁目1番地
東 経 136度50分
北 緯 34度53分

広 さ

面 積 48.35km²
東 西 6.1km
南 北 15.0km

市域の変遷

昭和29年4月1日 市制施行
(三和村、大野町、鬼崎町、常滑町、西浦町が合併)
昭和32年3月31日 小鈴谷町が合併
以前の歴史をさぐると、むかし、漁労の民が海岸沿いに、あるいは海を渡って当地に住みついたと想像される。
和名抄には知多贄代郷の地と記されており、永正4年(1507年)の宗長宇津山記には「伊勢の国多気より大湊に出で、尾張の国知多郡常滑という津に渡る」とある。
戦国時代を経て江戸時代には尾張藩の治下であり、維新後は名古屋藩、額田県そして愛知県に属した。
本市の地名「常滑」については、万葉集にも用例があり、学説では「常」は床の義をとり、「滑」は滑(なめらか)の義にとるのが妥当であるとされている。古くから、当地は岩土盤の露出が多く、その性質はなめらかになっており、その岩土盤全体をも「とこなめ」と呼ぶ習俗を生んだものとされている。

人口

人口と世帯数(平成4年4月1日現在)

人 口 52,702人(男 25,753人 女 26,949人)
世帯数 15,274世帯

人口の動態(各年4月1日現在)

区分 年度	自然動態		社会動態		増減
	出生	死亡	転入	転出	
元	454	358	1,155	1,489	△238
2	422	395	1,237	1,346	△82
3	466	363	1,538	1,535	106

人口と世帯数の推移(各年4月1日現在)

区分 年度	世帯数	人 口		計	備 考
		男	女		
29	8,482	19,999	22,980	42,979	29.4.1市制施行
30	8,509	20,135	23,078	43,213	
32	9,469	22,526	27,274	49,800	32.3.31小鈴谷町合併
40	11,340	25,140	27,944	53,084	
50	13,643	27,000	28,495	55,495	
60	14,467	26,424	27,502	53,926	
元	14,651	25,874	27,042	52,916	
2	14,758	25,745	26,933	52,678	
3	14,957	25,677	26,919	52,596	
4	15,274	25,753	26,949	52,702	

年齢別人口(平成4年4月1日現在)

	0～10歳	11～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71～80歳	81～90歳	91～100歳	101歳～
男	3,028	3,986	3,559	3,071	4,067	3,731	2,606	1,285	396	24	0
女	2,886	3,827	3,479	2,950	4,080	3,800	2,982	2,008	842	95	0
計	5,914	7,813	7,038	6,021	8,147	7,531	5,588	3,293	1,238	119	0

(男 25,753人 女 26,949人 合計 52,702人 平均年齢 39.08歳)

土地利用

地目別土地面積(平成4年1月1日現在)

(非課税土地を除く)

合 計	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地
3,342.8	1,001.2	706.3	757.9	5.6	639.7	86.9	145.2

単位…ha

都市計画(平成4年4月1日現在)

都市計画区域 昭和32年9月19日市内全域指定(公有水面地先含む)

第1種 住居専 用地域	第2種 住居専 用地域	住 居 地 域	近隣商 業地域	商 業 地 域	準工業 地 域	工 業 地 域	計
55.0	67.0	599.0	26.0	41.0	284.0	41.0	1,113.0

単位…ha

農村総合整備事業（平成4年4月1日現在）

地区名		用 途	農 用 地				非 農 用 地						合計
			水 田	畑	樹園地	小計	宅 地	山 林 原野等	営 農 施 設	公 共 用 地	道水路	小計	
常 滑	現 況		597.5	44.4	10.0	651.9	13.4	245.0	14.1	0.2	137.0	409.7	1,061.6
	計 画		453.2	223.3	10.7	687.2	25.0	28.7	39.0	78.9	202.8	374.4	1,061.6
鬼 崎	現 況		134.6	72.9	3.5	211.0	0.2	26.7	—	—	27.6	54.5	265.5
	計 画		95.1	93.8	2.1	191.0	3.4	0.3	—	27.9	42.9	74.5	265.5
常 滑 中 部	現 況		66.0	17.5	14.8	98.3	16.8	143.7	3.1	14.7	22.3	200.6	298.9
	計 画		46.2	102.6	14.2	163.0	16.8	44.0	5.7	30.2	39.2	135.9	298.9
常 滑 二 期	現 況		242.1	191.5	—	433.6	4.3	166.9	2.7	0.2	67.4	241.5	675.1
	計 画		167.1	271.7	—	438.8	12.4	58.2	11.4	46.5	107.8	236.3	675.1
小 鈴 谷	現 況		122.0	69.8	17.9	209.7	10.8	175.2	—	—	36.2	222.2	431.9
	計 画		85.4	171.4	33.7	290.5	17.9	32.8	—	38.3	52.4	141.4	431.9
合 計	現 況		1,162.2	396.1	46.2	1,604.5	45.5	757.5	19.9	15.1	290.5	1,128.5	2,733.0
	計 画		847.0	862.8	60.7	1,770.5	75.5	164.0	56.1	221.8	445.1	962.5	2,733.0

産業

事業所数と従業者数（各年7月1日現在）

産業分類	年 度	56 年		61 年		平成3年	
		事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
農 林 水 産 業		5	39	5	51	4	43
鉱 業		1	2	—	—	—	—
建 設 業		240	1,425	230	1,360	242	1,423
製 造 業		1,027	11,462	914	10,598	857	10,571
卸 ・ 小 売 業		1,148	4,303	1,100	4,332	1,057	4,638
金 融 ・ 保 険 業		23	582	25	406	33	511
不 動 産 業		37	57	44	71	45	85
運 輸 ・ 通 信 業		60	949	55	772	57	778
電気・ガス・水道業		4	83	3	91	3	76
サ ー ビ ス 業		518	4,163	574	3,821	595	4,419
公 務		17	550	17	500	15	478
合 計		3,080	23,615	2,967	22,002	2,908	23,022

※資料 事業所統計調査

教育

小中学校（平成4年5月1日現在）

区分 学校名	学級 数	児童・ 生徒数 人	教職 員数 人	校舎 延面積 ㎡	屋内 運動場 ㎡	プール 水面面積 ㎡	建物 敷地 ㎡	屋外 運動場 ㎡
三和小学校	13	360	19	4,036	517	375	7,562	13,092
大野 〃	13	312	19	6,022	547	375	7,639	11,021
鬼崎北 〃	9	235	16	3,842	504	375	8,187	10,110
鬼崎南 〃	25	742	36	7,564	774	420	11,859	12,548
常滑西 〃	17	515	25	8,838	2,367	465	11,772	9,312
常滑東 〃	17	522	24	8,201	1,062	375	12,705	14,989
西浦北 〃	13	376	19	4,064	517	375	6,959	6,228
西浦南 〃	9	234	16	3,873	470	375	3,221	10,244
小鈴谷 〃	12	279	18	4,049	500	375	6,572	9,819
計	128	3,575	192	50,489	7,258	3,510	76,476	97,363
青海中学校	13	402	25	4,381	1,726	353	8,784	16,779
鬼崎 〃	17	572	33	7,469	976	375	13,792	22,290
常滑 〃	17	578	31	12,221	3,927	425	20,913	47,288
南陵 〃	15	497	29	5,920	976	375	10,236	17,693
計	62	2,049	118	29,991	7,605	1,528	53,725	104,050

県立高等学校（平成4年5月1日現在）

区分 学校名	学級数	生徒数 人	教職員数 人	校舎 延面積 ㎡	建物 敷地 ㎡	体育館 ㎡	屋外 運動場 ㎡
常滑高校	全日19	736	65	17,362	17,874	2,032	26,266
	定時4	53	12				
常滑北高校	24	1,077	59	10,855	25,971	1,773	31,507
計	47	1,866	136	28,217	43,845	3,805	57,773

幼稚園（平成4年5月1日現在）

区分 園名	学級 数	定員 数 人	園児 数 人	教職員数 人	園舎 延面積 ㎡	建物 敷地 ㎡	屋外 運動場 ㎡
三和東幼稚園	4	90	63	6	732	1,290	1,350
常滑幼稚園	5	180	92	8	932	1,983	1,758
計	9	270	155	14	1,664	3,273	3,108

福祉

保育園（平成4年4月1日現在）

園名	建築 年度	構造	敷地 面積 ㎡	延床 面積 ㎡	園児数					
					定員 人	乳児 人	3歳児 人	4歳児 人	5歳児 人	計 人
三和南	52	鉄筋3F	5,972	1,450	90	0	29	25	29	83
三和西	49	鉄筋3F	4,807	1,446	80	8	25	16	21	70
青海	48	鉄筋3F	2,959	1,757	60	0	7	11	21	39
大野	52	鉄筋3F	2,417	1,208	60	0	11	13	12	36
鬼崎北	45	鉄筋2F	3,691	1,143	120	0	27	40	36	103
鬼崎中	43	軽鉄平	3,792	848	80	0	17	19	26	62
鬼崎西	53	鉄筋3F	3,006	1,576	90	4	14	26	26	70
鬼崎南	44	軽鉄平	4,038	1,101	170	0	42	56	49	147
常滑北	41	軽鉄平	2,300	729	90	0	25	21	25	71
瀬木	51	鉄筋3F	5,701	1,812	180	15	47	54	44	160
常石	41	軽鉄平	2,207	629	90	0	24	21	29	74
大曾	50	鉄筋3F	4,821	868	60	(園)				
丸山	48	鉄筋3F	4,119	1,476	120	9	31	37	34	111
西浦北	42	軽鉄平	4,054	865	90	0	26	23	28	77
西浦中	44	鉄筋2F	2,032	682	60	0	8	22	20	50
西浦南	47	鉄筋2F	2,771	984	70	0	21	20	19	60
松原	50	鉄筋2F	2,499	481	60	0	7	7	10	24
小鈴谷北	48	鉄筋3F	5,816	1,690	90	0	28	28	25	81
小鈴谷南	45	鉄筋2F	2,177	714	70	0	16	25	15	56
総計			69,179	21,459	1,730	36	405	464	469	1,374

児童福祉施設

保育園	児童館	児童遊園	ちびっこ広場
19	8	13	31

老人福祉施設

養護老人ホーム	老人憩の家
1	24

障害者福祉施設

精神薄弱児通園施設	小規模授産所
1	3

防災

消防車両(消防本部) (平成4年4月1日現在)

はしご車	大型水タンク車	水タンク付消防ポンプ車	消防ポンプ車	化学車	救助工作車	救急車	指令車	広報車	その他
1台	1	2	2	1	1	3	1	2	8

消防団現勢 (平成4年4月1日現在)

分団数	団員数	消防ポンプ車	小型動力ポンプ付積載車
9	382人	8台	15台

火災発生状況

昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年
30件	23件	27件	33件	23件

救急出場件数と搬送人員

	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年
出場	818件	852件	924件	922件	953件
搬送	785人	854人	935人	931人	957人

行財政

会計別当初予算規模

区 分			平成3年度	平成4年度	伸率
一 般 会 計			18,186,000千円	17,845,000千円	△1.9%
特 別 会 計			64,630,833	73,130,732	13.2
特別会計の内訳	交通災害共済事業		27,010	27,021	△0.3
	国民健康保険事業		2,464,308	2,552,120	3.6
	老人保健		2,777,479	3,093,500	11.4
	農業集落排水処理施設		593,595	669,166	12.7
	モーターボート競走事業		58,742,578	66,781,000	13.7
	陶業陶芸振興事業基金		25,863	7,925	△69.4
企 業 会 計			5,545,730	6,124,005	10.4
企業会計の内訳	水 道 事 業		1,219,414	1,401,416	14.9
	収 益 的	収 入	854,993	860,276	0.6
		支 出	808,962	823,128	1.8
	資 本 的	収 入	239,720	305,524	27.5
		支 出	410,452	578,288	40.9
	市 民 病 院 事 業		4,326,316	4,722,589	9.2
	収 益 的	収 入	3,938,126	4,102,338	4.2
		支 出	4,137,568	4,539,382	9.7
	資 本 的	収 入	91,052	86,696	△4.8
支 出		188,748	183,207	△2.9	
合 計			88,362,563	97,099,737	9.9

一般会計当初予算(歳入)

区分	平成3年度	平成4年度	伸率
市税	6,506,308千円	6,753,800千円	3.8%
地方譲与税	319,000	323,000	1.3
利子割交付金	200,000	250,000	25.0
特別地方消費税交付金	0	300	皆増
自動車取得税交付金	200,000	210,000	5.0
地方交付税	440,000	640,000	45.5
交通安全対策特別交付金	8,000	8,000	0.0
分担金及び負担金	244,677	252,085	3.0
使用料及び手数料	219,474	230,567	5.1
国庫支出金	1,326,363	868,696	△34.5
県支出金	1,060,556	698,127	△34.2
財産収入	324,503	266,567	△17.9
寄附金	28,581	29,704	3.9
繰入金	1,254,169	685,893	△45.3
繰越金	150,000	150,000	0.0
諸収入	5,603,769	5,796,761	3.4
市債	300,600	681,500	126.7
合計	18,186,000	17,845,000	△1.9

一般会計当初予算(歳出)

●目的別

区分	平成3年度	平成4年度	伸率
議会費	276,317千円	287,528千円	4.1%
総務費	1,977,472	2,104,040	6.4
民生費	3,375,832	3,740,052	10.8
衛生費	1,441,580	1,474,995	2.3
労働費	52,759	55,699	5.6
農林水産業費	2,396,130	2,083,241	△13.1
商工費	1,207,161	901,626	△25.3
土木費	3,933,656	3,265,943	△17.0
消防費	796,396	892,196	12.0
教育費	1,789,131	2,051,218	14.6
災害復旧費	2	5	150.0
公債費	894,563	943,456	5.5
諸支出金	1	1	0.0
予備費	45,000	45,000	0.0
合計	18,186,000	17,845,000	△1.9

●性質別

区分	平成3年度	平成4年度	伸率
人件費	4,936,187千円	5,289,192千円	7.2%
物件費	3,035,671	3,264,058	7.5
維持補修費	192,549	338,771	75.9
扶助費	672,926	836,143	24.3
補助費等	977,576	1,099,661	12.5
普通建設事業費	5,783,717	4,369,646	△24.4
災害復旧事業費	2	5	150.0
公債費	894,391	943,284	5.5
出資金貸付金	654,656	653,970	△0.1
積立金	203,005	192,900	△5.0
繰出金	790,320	812,370	2.8
予備費	45,000	45,000	0.0
合計	18,186,000	17,845,000	△1.9

資料編

1992

歴代三役

市長

伊奈長三郎	29. 4. 26~30. 3. 5	竹内 七郎	50. 5. 28~53. 9. 25
滝田 次郎	30. 3. 27~34. 3. 26	佐野 年治	53. 10. 25~54. 4. 2
久田 慶三	34. 3. 27~54. 4. 29	中村 克巳	54. 6. 22~61. 6. 3
庭瀬健太郎	54. 4. 30~62. 4. 29	太田 喜三	61. 6. 21~62. 5. 8
中村 克巳	62. 4. 30~ 3. 11. 3	石橋 誠晃	62. 6. 9~ 3. 11. 19
石橋 誠晃	3. 12. 1~在任中	水野 幸雄	4. 3. 23~在任中

助役

伊奈 四郎	29. 5. 7~32. 1. 21	山田 滝一	29. 5. 7~34. 6. 28
久田 慶三	30. 9. 28~34. 3. 5	平野 昭三	34. 6. 29~53. 5. 15
山田 滝一	34. 6. 29~38. 6. 28	桑山 浜市	53. 6. 23~61. 6. 22
服部 正次	38. 10. 25~50. 2. 20	榊原 福司	61. 6. 23~在任中

収入役

市議会

組織

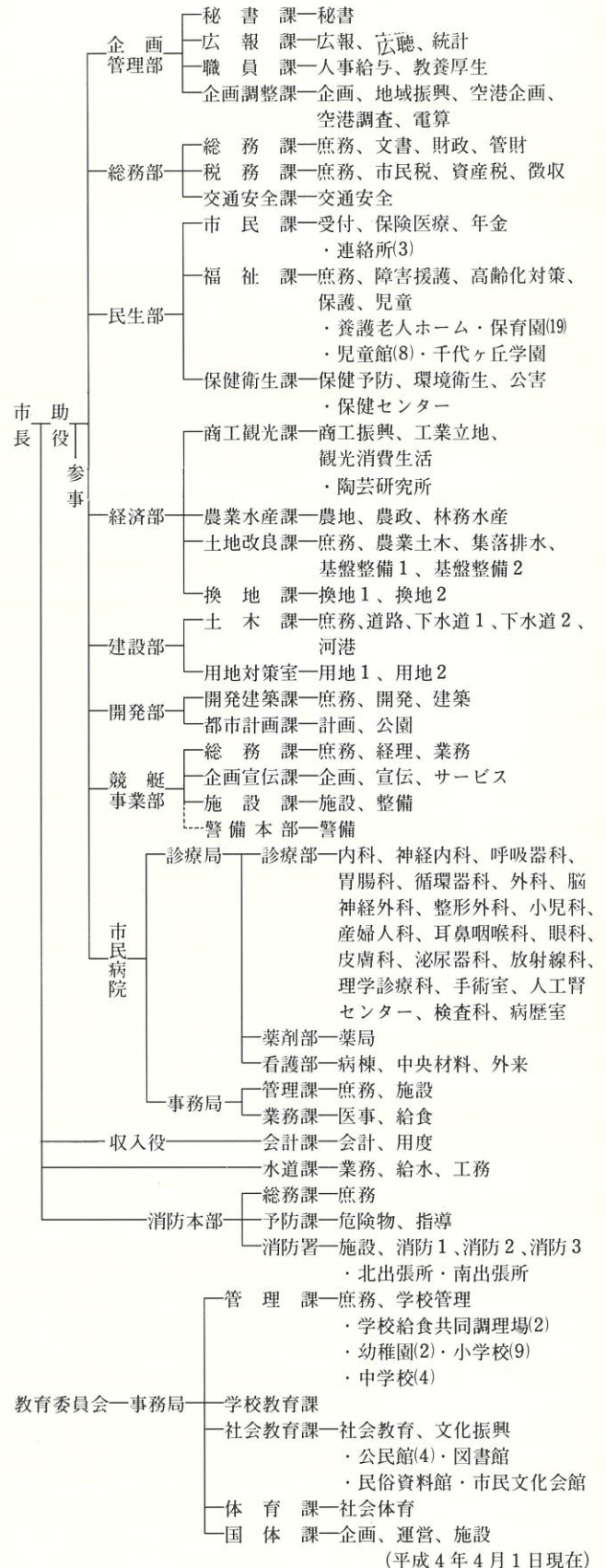


議員名簿 (平成4年5月8日現在)

議席番号	氏 名	政 党	職 業
1	山 田 紀 子	無所属	栄養士
2	庭 瀬 健太郎	無所属	無職
3	山 内 升 美	公明党	無職
4	石 原 多巳雄	公明党	食品販売
5	沢 田 丸四郎	無所属	会社役員
6	八 木 祥 信	無所属	会社役員
7	片 岡 勝 城	無所属	農漁業
8	柴 山 東一郎	無所属	会社役員
9	川 原 和 敏	無所属	理容業
10	村 上 道 明	無所属	農業
11	伊 藤 忠 二	無所属	衣料品販売
12	森 下 忠 治	無所属	会社役員
13	竹 内 弥 一	無所属	会社社長
14	岩 田 豊 次	無所属	鮮魚仕出業
15	後 藤 正	無所属	衣料品店
16	中 山 勇 式	無所属	農漁業
17	杉 江 秀 一	無所属	会社役員
18	鯉 江 勇	無所属	食品販売
19	鈴 木 輝 明	無所属	会社役員
20	山 本 勇	無所属	会社役員
21	衣 川 仁 市	無所属	建具木工業
22	西 村 武 治	無所属	農業
23	竹 内 満	無所属	書道塾経営
24	中 野 勇 夫	無所属	会社役員
25	鈴 村 庸 夫	無所属	会社顧問
26	山 田 竹 士	無所属	会社役員
27	稲 葉 民治郎	無所属	農業

行政機構

(・印は施設)



主な公共施設

〔市外局番〕常滑 <0569> 〒479

施 設	所 在 地	電 話	施 設	所 在 地	電 話
常滑市役所	新開町 4 - 1	代35-5111 FAX 35-4329	大曾保育園 (休園)	大曾町 3 - 36	
青海連絡所	大塚町177	42-0142	丸山保育園	山方町 7 - 156	34-4114
鬼崎連絡所	神明町 3 - 35	42-0475	西浦北保育園	樽水町 4 - 78	35-3147
南陵連絡所	苅屋字加茂30	35-2369	西浦中保育園	唐崎町 3 - 18	35-3152
物産情報センター	鯉江本町 5 - 141	34-8888	西浦南保育園	古場町 3 - 89	35-4100
市民文化会館	新開町 5 - 65	35-3111	松原保育園	松原字神水 1 - 1	34-3117
青海公民館	大塚町177	43-6622	小鈴谷北保育園	大谷字井戸尻13	37-0164
鬼崎公民館	神明町 3 - 35	43-0660	小鈴谷南保育園	坂井字中山25 - 2	37-0055
中央公民館	新開町 5 - 65	35-6311	千代ヶ丘学園	千代ヶ丘 2 - 15	34-7211
南陵公民館	苅屋字加茂30	34-4748	神明授産所	神明町 3 - 61	43-5722
市民体育館	新開町 1 - 100	35-4611	梶間授産所	白山町 3 - 24	35-6659
南陵新体育館	苅屋字加茂30	34-4748	千代ヶ丘授産所	千代ヶ丘 2 - 15	34-8417
大曾公園管理事務所	大曾町 6 - 3	35-2797	社会福祉協議会	本町 2 - 237	34-4018
常滑競技場	大曾町 6 - 3	35-2797	シルバー人材センター	本町 2 - 216	34-5125
常滑球場	大曾町 6 - 3	35-2797	養護老人ホーム	金山字屋敷30 - 1	42-0771
常滑プール	大曾町 6 - 3	35-2797	三和児童館	久米字西郷18	43-5537
図書館	新開町 1 - 104	35-2217	大野児童センター	大野町 6 - 36	42-0001
北学校給食共同調理場	港町 1 - 21	42-0773	西之口児童館	西之口 8 - 60	43-5721
南学校給食共同調理場	保示町 6 - 38	35-4001	明和児童館	明和町 3 - 15	34-7210
市民病院	鯉江本町 4 - 5	代35-3170	常滑児童センター	瀬木町 1 - 105	35-3666
競艇事業部	新開町 4 - 111	代35-5211	家庭児童相談室	瀬木町 1 - 105	34-8234
消防本部 (署)	新開町 5 - 11	35-2600	唐崎児童館	唐崎町 3 - 18	34-3115
消防署北出張所	榎戸町 1 - 76	42-0352	西浦南児童館	古場町 7 - 16 - 3	34-6940
消防署南出張所	苅屋字加茂30	34-6148	小鈴谷児童館	大谷字松ヶ坪95 - 2	37-0623
柔剣道場	港町 3 - 1		中部知多衛生組合	知多郡武豊町字荻町田90-10	72-0876
南陵武道場	苅屋字加茂30		常滑武豊衛生組合	知多郡武豊町字荻町田27	72-0816
体育練習場	新開町 2 - 9		知多地区農業共済事務組合	半田市東洋町 3 - 60	24-3711
陶芸研究所	奥条 7 - 22	35-3970	野外教育センター	北設楽郡設楽町大字八橋字西路14	05366-2-2016
陶業試作訓練所	字飛渡28 - 1	35-3290	民俗資料館	瀬木町 4 - 203	34-5290
陶磁器会館	栄町 3 - 8	35-2033	三和小学校	久米字諏訪山30	42-0749
商工会館	新開町 5 - 58	34-3200	大野小学校	大野町10-70	42-1011
交通安全センター	大曾町 3 - 30	35-5384	鬼崎北小学校	住吉町 2 - 56	42-0222
保健センター	新開町 5 - 62	34-7000	鬼崎南小学校	明和町 2 - 47	35-2422
火葬場	字高坂23-35	34-3168	常滑西小学校	本町 3 - 136	35-2104
三和東幼稚園	矢田字東根組37	42-0143	常滑東小学校	瀬木町 4 - 100	35-2428
常滑幼稚園	原松町 2 - 193	35-2124	西浦北小学校	塩田町 1 - 155	35-2164
三和南保育園	金山字平井120	42-0774	西浦南小学校	古場字栗下前 5	35-4002
三和西保育園	小倉町 8 - 110	42-0769	小鈴谷小学校	大谷字井戸尻 2 - 2	37-0021
青海保育園	金山字油手 6	42-4333	青海中学校	金山字南平井13 - 1	42-0331
大野保育園	大野町 8 - 75	42-1400	鬼崎中学校	港町 3 - 1	42-0221
鬼崎北保育園	住吉町 5 - 36	42-0612	常滑中学校	字二ノ田16-14	35-2375
鬼崎中保育園	榎戸町 1 - 106	42-0772	南陵中学校	苅屋町 5 - 50	35-4005
鬼崎西保育園	新田町 2 - 18 - 3	43-4122	農業管理センター	榎戸字午新田154 - 3	42-0248
鬼崎南保育園	森西町 1 - 55	35-2877	県立常滑北高等学校	金山字四井池10	43-1151
常滑北保育園	栄町 6 - 224	35-2437	県立常滑高等学校	奥栄町 1 - 168	35-2132
瀬木保育園	瀬木町 2 - 94	35-2645	常滑窯業技術センター	大曾町 4 - 50	35-5151
常石保育園	奥条 7 - 36	35-4823	知多保健所常滑支所	新開町 5 - 62	35-2537
			一般廃棄物最終処分場	樽水字奥平地内	34-9250

発 行：常滑市役所

〒479 愛知県常滑市新開町4-1

発行日：平成4年7月

編 集：企画管理部広報課

印 刷：株式会社 平和堂

1992
市勢要覧

常滑
とこなめ